

歳旦茶暮

梅香自いふおく之を物のみ 銀幣
一寸乃路もくめは古曆、
折公と木代く小走を家法春奇鳥
素竹素深世の懐極と出るは、

あはれまことしん

お州下温氷紀不二乃物 左は戸 雲花

中一ははまは之を文の去る髪、

いしは神やうそ舞七羽の春 全 雁路

年の市魔の入る際かふりて、

遠きや橋袖と産る氷宮山 雲中居 完未

大なる星もあやなると此市、

春興

馬上うろ名を同上山や 赤部 柳度午心

春乃雲川は是より 全 中環より馬肝

まはれ再女法は津永く是へり 全 雁踏

お梅や砂川は空院谷乃坊雲花

雛子啼や春の燒糸は 全 日了は奇鳥

るや 全 中環より素徳外記柳は銀幣

夢 全 中環より移ぬ乃草と舌 全 中環より

中環より七乙甲乃 全 中環より

西本堂持